

第35回エアロゾル科学・技術研究討論会と市民公開講座(大気エアロゾルの環境管理・改善に関する研究最前線)を開催

環境学研究科の後援を得て、表記の討論会と公開講座をシンポジオンホールと豊田講堂第1会議室で2018年7月31日から8月2日にかけて開催しました。日本エアロゾル学会主催の本討論会は、大気環境から公衆衛生、機能性材料としての微粒子、空気清浄など、幅広い研究分野の研究者・技術者が集い、研究交流や情報交換を目的として毎年この時期に開催されています。名古屋大学は関連する研究者が多いので、2010年に続き3度目の開催です。

「エアロゾル」とは、気体中に浮遊する微小な液体または固体の粒子のことで、花粉や黄砂、PM_{2.5}等がそれに該当します。また、機能性材料として利用が進むナノ粒子の生成や応用もこの学会の守備範囲です。討論会では、3つのコア・シンポジウム(「エアロゾルと健康影響との関連を探る」と「ナノ粒子の生成とその応用」、「小型エアロゾル計測器の開発と応用:ビッグデータ・IoT時代に向けて」)を開催した他、大気エアロゾル、室内エアロゾル、エアロゾルの測定方法、クリーンルームでのエアロゾル等に関して、活発な討論が繰り広げられました。討論会全体としては、2会場での口頭発表が76件、ホワイエでのポスター発表が65件と、ここ数年では若干多めの件数が発表されました。討論会本体と、エアロゾルに関する基礎講座や、計測機器の展示・実演も含めた参加者総数は約250名でした。

最終日の午後には、(独)環境再生保全機構の環境研究総合推進費による大気エアロゾル研究の内容を一般向けに紹介する市民公開講座も開催しました。市民公開講座では、推進費による6つの研究課題について講演があり、エアロゾル学会員の他にも、環境行政に携わる方々や、大気環境に関心の深い一般市民の方々も聴講に訪れていました。ちょうど酷暑の時期でしたが、口頭発表やポスター発表、懇親会、機器展示、基礎講座に市民講座と、冷房の効いた室内からでることなく過ごすことができたこともあり、多くの参加者から好評を得ました。

(地球環境科学専攻 教授・長田 和雄)

